

リリース ノート

HP ProLiantストレージ サーバ

第1版
2004年11月

378129–191

本書では、HP ProLiantストレージ サーバに関して他のドキュメントに掲載されていない重要な情報を要約しています。
本書および他のストレージ関連のドキュメントに関する最新情報は、次のHPのStorage Webサイトを参照してください。

<http://www.hp.com/country/us/eng/prodserv/storage.html> (英語)

<http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserv/storage.html> (日本語)

ご注意

Copyright © 2004 Hewlett-Packard development Company, L.P.

Hewlett-Packard Companyは、本書についていかなる保証（商品性および特定の目的のための適合性に関する黙示の保証を含む）も与えるものではありません。Hewlett-Packard Companyは、本書中の誤りに対して、また本書の供給、機能または使用に関連して生じた付随的損害、派生的損害または間接的損害を含めいかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護されている機密情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Companyの事前の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他の言語に翻訳することはできません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett-Packard Company 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

Adobe®およびAcrobat®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

Intel®およびCeleron®は、米国およびその他の国におけるIntel Corporation の登録商標です。

Intel®およびItanium®は、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標または登録商標で、ライセンスのもとで使用しています。

Intel® Itanium™プロセッサ ファミリは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標で、ライセンスのもとで使用しています。

Microsoft®, MS-DOS®, MS Windows®, Windows®, およびWindows NT®は、米国におけるMicrosoft Corporation の登録商標です。

Oracle®は、Oracle Corporation (Redwood City, California) の米国における登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、“そのままの状態”で提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett-Packard Company 製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

HP ProLiantストレージ サーバ リリース ノート

目次

1 概要	1
リリース ノートに関する情報	1
対象読者	1
その他の資料	1
ストレージ サーバのWebユーザー インターフェース	1
スケジュールされた再起動が実行されない	1
複数のボリュームを選択している場合にシャドウ コピーを作成できない	2
WebUIで表示したときにフォーマットされていないボリュームまたはパーティションが0 MBと表示される	2
マウント ポイントもドライブ 文字もないボリュームを保持するディスクのフォーマットが失敗する	2
WebUIの [シャドウ コピーのプロパティ(Shadow Copies Properties)] ページが破損している	2
VSSを無効にしたボリュームで、VSSスナップショットが作成できる	3
ファイル システムを検索できない	3
すでに作成したグループが警告なしで上書きされてしまう	3
WebUIではシャドウ コピーのスケジュールが1日に1回しか設定できない	4
DNSサフィックスの変更が有効にならない	4
Webベース ユーザー インターフェース コンポーネントの情報がWebUIの「ツアーの体験 (Take a Tour)」で表示されない	5
リモート デスクトップ終了時の注意事項	5
無効にされたネットワーク カードがWebUIで表示されない	5
ホスト名を変更してもブラウザのアドレス バーが変化しない	5
ラピッド スタートアップ ウィザードが自動的に進んでしまう	5
ホスト名を変更しても [再起動中 (Restarting)] ページが更新されない	6
ネットワーク インターフェースをDHCPからスタティック アドレスに変更した場合にページが返されなくなる	6
NTFSマウント ポイントの管理	6
ボリューム ページでボリューム マウント ポイントが不適切に表示される	6
デフォルトのユーザー名とパスワード	6
孤立した共有がWebUIで引き続き表示される	6
Active HTMLストレージのレポートがファイル情報を正しく表示しない	8
リスト ボックスが正しくスクロールしない	8
DFSルートが [ファイル共有] ページを更新しない	8
FATとFAT32の各ボリュームが ボリューム メイン ページで表示されない	8
HTTPは動作していると表示されるがHTTPアクセスが拒否される	8
Storage ManagerがWebUIでローカライズされずに表示される	8
WebUIのバージョン情報が正しくない	9
WebUIからACUの起動に失敗する	9
DL370ストレージ サーバのWebUIではローカライズの対象として8つの言語すべてが表示される	9
構成	9
ML110 / DL100ではドライブ 文字のない論理ディスクのフォーマットに失敗する	9
SNMPのコミュニティ文字列の誤り	9
Exchangeデータベース	10
構成の変更中にメールストアの移動に関して予期しない報告が表示される	10
リモート ストレージ ウィザード (Remote Storage Wizard) で元のパスへ戻すことができない	10
複数のメールストアを移動するときにコピーに失敗する	10

移動を選択していないが 構成要約レポート (Config summary reports) ではすべてを移動 している最中だと報告される	10
NFSクライアントとServices for NFS	10
ファイル サイズがサーバに正しく反映されない	11
NFS非同期/同期 の設定を変更することは望ましくない	11
WebUIを介してNFSログをクリアするとログ ファイルがアクセス不能になる	11
NFS管理共有のサポート	11
ボリューム マウント ポイントのサポート	11
NFS管理者がドメインにログインしていない場合、管理者はNFSマッピングの対象になっ ているドメイン ユーザーとグループをマッピングできない	12
日本語文字をマップするユーザー名	12
パスワード ファイルとグループ ファイルに記載したコメントが認識されない	12
マッピング サービスの起動に失敗する	12
Services for UNIX (SFU) 3.5の新しい機能	13
Interixプログラムに対するsetuid動作の有効化	13
[Mapped Users(マップ ユーザー)] ボックスに日本語文字が表示される	13
アプリケーションのヘルプ	13
スケジュールされたストレージレポートの保存場所に関するヘルプ項目が見つからない	13
HP OpenView Storage Mirroring ページに関するコンテキスト ヘルプが正しく表示されない	14
その他のアプリケーションとユーティリティ	14
日本語サポート	14
Storage Manager 2.0コンポーネントにアクセスすると、ブルースクリーン (BSOD) が表示さ れる	14
HPユーティリティのサポート	15
DL100/ML110がRapid Launchの検出ウィンドウで正しく表示されない	15
Rapid LaunchがProLiantストレージ サーバ製品の検出に失敗する	15
SNMPが50%の負荷を発生させるかブート時にエラーになる	15
暗号化ファイルのリプリケーションに失敗する	16
NSS ビルド 1.2.402.211のNQSはWSSベースのストレージ サーバでは機能しない	16
ML110とDL100で書き込みキャッシュが無効になる	16
Internet ExplorerがMicrosoftのWebサイトから取得したWindows Updateページをデフォ ルトにする	16
HPのWebサイトで最新のセキュリティ ホット フィックスを確認する	16
Microsoft Storage Server 2003	17
ストレージ管理機能を使用してファイル スクリーニングを実装しているときに不正なエラー が発生する	17
MacintoshマシンからAppleShareに接続できない	17
クイック リストア プロセス	17
論理ドライブが見つからない場合、クイック リストアDVDはすべてのデータを消去する	17
DVDドライブトレイの自動クローズ機能がクイック リストアを起動してしまう	17

第 1 章 概要

リリース ノートに関する情報

本書では、以下の項目について説明します。

- ストレージ サーバのWebユーザー インターフェース
 - 構成
 - Exchangeデータベース
 - NFSクライアントとServices for NFS
 - アプリケーションのヘルプ
 - 付加的なアプリケーションとユーティリティ
 - Microsoft Storage Server 2003
 - クイック リストア プロセス
-

対象読者

本書は、HP ProLiant ストレージ サーバをご購入頂いたお客様を対象としています。

その他の資料

ホワイト ペーパーやベスト プラクティスに関するドキュメントなど、他のドキュメントについては、次のHPのWebサイトから入手できます。<http://www.hp.com>

ストレージ サーバのWebユーザー インターフェース

この項では、WebUIの使用方法に関する追加情報を説明します。

スケジュールされた再起動が実行されない

[メンテナンス(Maintenance)] タブから [シャットダウン(Shutdown)]、[スケジュールされたシャットダウン(Scheduled Shutdown)]、[再起動がスケジュールされます(Restart Scheduled)] の順に選択し、時間制限を入力した場合、システムは再起動しません。

この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. リモート デスクトップ接続を使用して、ストレージ サーバ デスクトップにアクセスします。
2. タスク バーの **[スタート(Start)]** をクリックします。
3. **[プログラム(Programs)]**、**[アクセサリ(Accessories)]**、**[システム ツール(System Tools)]** を順に選択し、**[タスク(Scheduled Tasks)]** を選択します。
4. **[スケジュールされたタスクの追加(Add Scheduled Task)]** ウィザードを使用して、再起動のスケジュールを設定します。

複数のボリュームを選択している場合にシャドウ コピーを作成できない

複数のボリュームが選択され、その中に350 MB未満のボリュームがある場合、シャドウ コピーは失敗します。

シャドウ コピーを作成する目的で複数のボリュームを選択する場合、どのボリュームも350 MB以上であることを確認してください。

WebUIで表示したときにフォーマットされていないボリュームまたはパーティションが0 MBと表示される

新しく作成したパーティションまたはダイナミック ボリュームをユーザーがまだフォーマットしていない場合、WebUI の **[ディスク(Disks)]** ページではそのパーティションまたはボリュームが0 MBであると表示されます。**[ディスクの管理]** でボリュームの正しいサイズが表示される場合でも、このことは当てはまります。

この問題を解決するには、ボリュームまたはパーティションをフォーマットし、次にWebUIを更新します。

マウント ポイントもドライブ文字もないボリュームを保持するディスクのフォーマットが失敗する

新しく作成されたパーティションまたはダイナミック ボリュームに対してマウントしていないかドライブ 文字を割り当てていない場合、ディスクのフォーマットを行おうとしても、フォーマットが失敗します。

この問題を解決するには、ボリュームまたはパーティションにドライブ 文字かマウント ポイントを割り当てる必要があります。ボリューム名を右クリックし、**[ドライブ文字とパスの変更(Change drive letter or paths)]** を選択します。ドライブ 文字またはマウント ポイントを割り当てた後、ディスクをフォーマットできるようになります。フォーマットが完了した後、パスまたはドライブ 名を削除することもできます。

WebUIの **[シャドウ コピーのプロパティ(Shadow Copies Properties)]** ページが破損している

WebUIで **[シャドウ コピー(Shadow Copies)]**、**[プロパティ(Properties)]** を順に選択した場合、**[プロパティ(Properties)]** ページでは正しい情報が表示されますが、キャッシュ ファイルの場所に変更を加えた場合、実際の場所はその変更結果を反映せず、エラー メッセージも表示されません。このページをもう一度表示した場合、キャッシュ ファイルの元の場所がそのまま維持されています。

この問題を解決するには、リモート デスクトップを使用して、**[マイ コンピュータ (My Computer)]** で表示されるドライブ名に関する **[シャドウ コピーのプロパティ (Shadow Copies Properties)]** タブにアクセスします。この作業を行うには、以下の手順に従ってください。

1. リモート デスクトップを使用してコンピュータに接続します。
2. **[マイ コンピュータ (My Computer)]** を開きます。

3. 目的のドライブを右クリックし、[プロパティ(Properties)] をクリックします。
4. [シャドウ コピー(Shadow Copies)] タブをクリックし、プロパティを表示します。

VSSを無効にしたボリュームで、VSSスナップショットが作成できる

無効にしたボリュームで、VSSスナップショットを作成することは可能です。

この問題は、「無効」という用語の意味を混同した結果です。ボリュームを無効にするという表現は、すべての設定をクリアすることを意味しています。シャドウ コピーを作成することを防止するわけではありません。

ボリューム上でシャドウ コピーを無効にすると、新しいシャドウ コピーの作成のスケジュールだけでなく、ボリューム上にあるすべての既存のシャドウ コピーが削除されます。ボリュームのシャドウ コピーを無効にするには、以下の手順に従ってください。

1. プライマリ ナビゲーション バーで [ディスク(Disks)] をクリックします。
2. [シャドウ コピー(Shadow Copies)] タブをクリックします。
3. [シャドウ コピーの管理(Manage Shadow Copies)] ページで、シャドウ コピーを無効にするボリュームを1つ以上選択します。
4. タスク一覧の [無効(Disable)] をクリックします。[シャドウ コピーを無効にする (Disable Shadow Copies)] ページで、シャドウ コピーが無効になるボリュームが表示されます。
5. [OK] をクリックして、既存のシャドウ コピーとボリュームの設定を削除します。



注意

シャドウ コピー サービスが無効にされると、選択されたボリュームのすべてのシャドウ コピーが削除されます。削除されたシャドウ コピーは復元できません。

ファイル システムを検索できない

WebUIを開き、[ディスク (Disks)]、[ボリューム (Volumes)] の順に選択します。[検索 (Search)] ドロップダウンリストで、[ファイル システム(File system)] を選択します。テキスト フィールドで、ファイル システムの名前 (NTFS または FAT32) を入力し、[開始(Go)] をクリックします。どのボリュームも表示されません。

ファイル システムの検索機能は、現時点では利用できません。特定のファイル システムを使用しているすべてのボリュームを表示するには、[ファイル システム (File System)] ラベルをクリックし、ボリュームをソートします。

すでに作成したグループが警告なしで上書きされてしまう

WebUIを開き、[共有(Shares)] タブをクリックします。[ファイル スクリーニング (File Screening)]、[グループ (Groups)]、[新規 (New)] を選択します。既存のグループと同じ名前をもつグループを作成することは可能です。この状況では、指定された名前をもつグループがすでに存在すると、ユーザーに通知することなく、WebUIは既存のグループを上書きします。

ファイル スクリーニングのグループそれぞれに対して、一意の名前を指定するよう注意してください。

WebUIではシャドウ コピーのスケジュールが1日に1回しか設定できない

WebUIを開き、[ディスク (Disks)]、[シャドウ コピー (Shadow Copies)]、[スケジュールの設定 (Set Schedule)]、[新規 (New)] を選択した場合、シャドウ コピーのスケジュールを1日に1回の頻度より細分化することはできません。1時間に1回を上回る頻度でスケジュールを設定しないよう、警告が表示されますが、WebUIを介する場合、そのような設定は不可能です (Windowsデスクトップでは、1時間ごとの作成が可能です)。

詳細な細分化を行うには、Microsoftリモート デスクトップを使用し、以下の手順を実行してください。

1. エクスプローラ を実行します。
2. 目的のディスクを右クリックし、[プロパティ(Properties)] を選択します。
3. [シャドウ コピー (Shadow Copies)]、[設定 (Settings)]、[スケジュール (Schedule)]、[新規 (New)] の順に選択し、1日に1回を上回る頻度でシャドウ コピーを作成するようスケジュールを設定します。

DNSサフィックスの変更が有効にならない

以下の手順に従った場合、DNSサフィックスが変更されません。

1. リモート デスクトップを使用して、サーバーのDNSサフィックスを設定します (例では、bob.com)。
2. WebUIを開きます。
3. [開始 (welcome)] タブをクリックします。
4. [サーバー名の設定 (Set Server Name)] を選択します。
5. DNSサフィックスを変更します (bob.comからserver.wssへ)。

次のメッセージが表示されます。

システム変更の設定にエラーがありました。(80070A87) (There was a failure in the Change System settings. (80070A87))

この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. WebUIを介してリモート デスクトップにログインします。
2. [マイ コンピュータ(My Computer)] を右クリックします。
3. [プロパティ (Properties)] をクリックします。
4. [コンピュータ名 (Computer Name)] タブをクリックし、[変更 (Change)] をクリックします。
5. [詳細 (More)] をクリックします。
6. 表示されたテキスト ボックスでDNSサフィックスを変更、または入力し、[OK] をクリックします。
7. システムをリブートします。

Webベース ユーザー インターフェイス コンポーネントの情報がWebUIの「ツアーの体験 (Take a Tour)」で表示されない

「ツアーの体験 (Take a Tour)」では、以下のWebUIコンポーネントが不足しています。

- [SNMP設定 (SNMP Setup)]
- [Adaptec Storage Manager]

SNMPセットアップの詳細を表示するには、[ヘルプ (Help)] タブをクリックします。ヘルプ メニューから [ネットワーク セットアップ (Network Setup)]、[SNMP設定 (SNMP Settings)] をクリックします。

Adaptec Storage Manager の詳細を表示するには、[ディスク(Disks)] タブをクリックし、次に [Adaptec Storage Manager] サブタブをクリックします。Adaptec Storage Manager から、[Help] メニューをクリックし、Adaptec Storage Manager のドキュメントにアクセスします。

リモート デスクトップ終了時の注意事項

アプリケーション メニューを使用してプログラムを終了したり、リモート デスクトップ セッションをログオフせずに、ブラウザを閉じると、特定の操作でユーティリティが実行されたままになることがあります。リモート デスクトップ セッションが異常終了した場合、一部のアプリケーションは孤立することがあります。リモート デスクトップ セッションは同時に2つまで実行できますが、一方のセッションを不正に終了すると、リモート デスクトップ セッションが消費し尽くされてしまうことがあります。セッションやプロセスを終了するには、[スタート (Start)]、[プログラム (Programs)]、[管理ツール (Administrative Tools)] の順に選択し、[ターミナル サービス マネージャ (Terminal Services Manager)] を使用します。

無効にされたネットワーク カードがWebUIで表示されない

ネットワーク カードが無効にされた場合、そのネットワーク カードはWebUIの中では表示されません。そのネットワーク カードをWebUIの中で再び表示するには、リモート デスクトップを使用して再び有効にする必要があります。NICチームを確立し、そのチームが有効な状態でラピッド スタートアップを実行すると、ラピッド スタートアップは応答しなくなります。[ネットワーク インタフェース情報 (Network Interface Information)] ページは応答しなくなり、ウィザード ページを終了できなくなります。ラピッド スタートアップを終了するには、WebUIの中にある他のメニュー項目のいずれかをクリックします。

ホスト名を変更してもブラウザのアドレス バーが変化しない

WebUIからホスト名を変更した場合、サーバは再起動されますが、アドレス バーの識別子が変わりません。WebUIは引き続き機能しますが、次のメッセージが表示されることがあります。

ページを表示できません。(The page cannot be displayed.)

または、ターミナル サービスのスクリプト エラーが発生します。この問題を解決するには、アドレス バーに新しいサーバ名を入力します。

ラピッド スタートアップ ウィザードが自動的に進んでしまう

ラピッド スタートアップ ウィザードの [日付と時刻の設定 (Date and Time Settings)] ページに変更を加えていない場合、1分が経過した後、ラピッド スタートアップ ウィザードの次のページへ自動的に進んでしまいます。これは、システムの適切な時刻を維持するために意図的に発生させている動作です。

ホスト名を変更しても [再起動中 (Restarting)] ページが更新されない

ラピッド スタートアップ ウィザードの中でホスト名を変更した場合、[再起動中 (Restarting)] ページが更新されて [開始 (Welcome)] ページに移動することが期待されますが、そのような動作が発生しません。この問題を解決するには、アドレス バーに新しいホスト名とポート3202を再入力します。

ネットワーク インターフェースをDHCPからスタティック アドレスに変更した場合にページが返されなくなる

WebUIを使用して、管理に使用しているポートのIP設定を変更した場合、現在のアドレスからホストに到達できなくなります。この現象が発生した場合、設定は有効になりますが、ネットワーク インタフェース ページのボタンは淡色表示され、ページは返されなくなります。WebUIに再びアクセスするには、ブラウザを閉じ、もう一度ブラウザを開き、新しく識別されるようになった 管理ポートにアクセスします。

NTFSマウント ポイントの管理

WebUIの中で、NTFSマウント ポイントを管理する機能は、現時点では存在しません。NTFSマウント ポイントを作成または管理するには、リモート デスクトップを使用する必要があります。リモート デスクトップを起動するには、ナビゲーション メニューの [メンテナンス (Maintenance)]、[リモート デスクトップ (Remote Desktop)] を順に選択します。

ボリューム ページでボリューム マウント ポイントが不適切に表示される

設計上、ボリューム ページではボリューム マウント ポイントは表示されません。マウント ポイントを表示するには、アドバンスド ボリューム マネージメント という選択肢にアクセスし、各ドライブを右クリックし、[ドライブ 文字とパスの変更 (Change Drive Letter and Paths)] を選択します。

デフォルトのユーザー名とパスワード

WebUIまたはコンソールを使用してサーバの管理を行う場合、デフォルトのユーザー名とパスワードは以下のとおりです。

- ユーザー名: Administrator
- パスワード: hpinvent

孤立した共有がWebUIで引き続き表示される

Windows Storage Server 2003環境で、共有を保持しているディスクを削除した場合、その共有は孤立した共有としてファイル システムの中に残ります。孤立した共有を削除するか、システムまたはサービスを再起動するまでは、孤立した共有はWebUIの中で引き続き表示されます。

孤立したCIFS共有またはNFS共有をシステムから削除するには、3つの方法があります。方法1と方法2は、サービスを一時停止する結果になります。

1. 以下の手順に従って、サーバ サービスを再起動します。
 - a. WebUIを開きます。
 - b. [メンテナンス (Maintenance)]、[リモート デスクトップ (Remote Desktop)] を順にクリックし、ログインします。

- c. **[マイ コンピュータ (My Computer)]** を右クリックし、**[管理 (Manage)]** をクリックします。
 - d. 管理ツリーの**[サービス (Services)]** 部分を開きます。
 - e. **[Server]** を右クリックし、**[再起動 (Restart)]** を選択します。
2. 以下の手順に従って、ストレージ サーバを再起動します。
 - a. WebUIを開きます。
 - b. **[メンテナンス (Maintenance)]**、**[シャットダウン (Shutdown)]**、**[再起動 (Restart)]** の順に選択します。
 - c. **[OK]** をクリックし、ストレージ サーバを再起動します。
3. 以下の手順に従って、共有ドライブと共有フォルダを再構築し、次に各共有を削除します。
 - a. WebUIを開きます。
 - b. **[メンテナンス (Maintenance)]**、**[リモート デスクトップ (Remote Desktop)]** を順にクリックし、ログインします。
 - c. ディスクを作成し、孤立した共有と同じドライブ文字にマップします。
 - d. 孤立した共有を表すパスをもう一度作成します。
 - e. その共有を削除します。

孤立した共有がFTP共有だった場合、以下の手順に従ってください。

1. デスクトップ上にある **[Management Console]** アイコンをダブル クリックします。
2. **[Core Operating System]** をクリックします。
3. **[Internet Information Services(IIS) Manager]** をクリックします。
4. ストレージ サーバのマシン名をクリックします。
5. **[Default FTP site]** タブをクリックします。
6. 削除対象の共有の名前を右クリックします。
7. **[削除(Delete)]** をクリックします。

孤立した共有がHTTP共有だった場合、以下の手順に従ってください。

1. デスクトップ上にある **[Management Console]** アイコンをダブル クリックします。
2. **[Core Operating System]** をクリックします。
3. **[Internet Information Services(IIS) Manager]** をクリックします。
4. ストレージ サーバのマシン名をクリックします。
5. **[Shares]** タブをクリックします。
6. 削除対象の共有の名前を右クリックします。
7. **[削除 (Delete)]** をクリックします。

Active HTMLストレージのレポートがファイル情報を正しく表示しない

ストレージレポートの形式が Active HTML に設定されている場合、Internet Explorerを使用してこのレポートを開いたときに、ファイル情報が何も表示されません。レポートの内容全体を表示するには、ストレージレポートの形式を通常のHTMLに設定します。

リスト ボックスが正しくスクロールしない

Internet Explorerの一部のバージョンでは、リスト ボックスをブラウザ ウィンドウのビューの外側へスクロールする作業、および再びビューの内側へスクロールする作業が失敗します。この現象が発生した場合、ブラウザ ウィンドウを最大化してください。その結果、リスト ボックス全体が表示されます。

DFSルートが [ファイル共有] ページを更新しない

DFSルートを作成し、デフォルトで共有に対して有効にされた状況で、後になって新しい名前を使用してDFSルートを再び作成した場合、[共有フォルダ (Shared Folders)] ページでDFSローカル ルートの情報が更新されず、古い名前を使用してDFSエントリを作成することが試みられます。

この問題を解決するには、[分散ファイル システムのプロパティ (Distributed File System Properties)] ページで、デフォルトのDFS情報を更新し、[OK] をクリックします。[共有フォルダ (Shared Folders)] ページで、正しいDFS情報が表示されるようになります。

FATとFAT32の各ボリュームが ボリューム メイン ページで表示されない

WebUIの [ディスク (Disks)]、[ボリューム (Volumes)] メイン ページではNTFSボリュームだけを管理しているので、このページではNTFSボリュームだけが表示されます。

HTTPは動作していると表示されるがHTTPアクセスが拒否される

セキュリティ設定が原因でアクセスが無効になっているにもかかわらず、WebUIの [共有 (Shares)]、[共有プロトコル (Sharing Protocols)] ページでは、HTTPプロトコルが「実行中 (Running)」および「自動 (Automatic)」と表示されることがあります。

この問題を解決するには、WebUIの [共有 (Shares)]、[共有プロトコル (Sharing Protocols)]、[HTTP]、[プロパティ (Properties)]、[セキュリティ (Security)] を順に選択します。アクセスを有効にするために、セキュリティを適切なレベルに設定します。

Storage ManagerがWebUIでローカライズされずに表示される

言語を日本語に変更しても、WebUIのStorage Manager はローカライズされません。日本語を選択した後、[共有]タブのローカライズされた文字列が表示される箇所に、String IDが表示されます。この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

なお、日本語への変換方法については日本語サポートの項をご覧ください。

1. [コントロール パネル] から [プログラムの追加と削除] にアクセスします。
 - a. 「Storage Manager 2.0 for Server Appliances [KB840141]」を削除します。
 - b. 「Storage Manager 2.0 for Server Appliances」を削除します。

2. リブートします。
3. c:\HP\NAS\Components\StorageManagerに移動します。
4. Setup.exeを実行してStorage Manager をインストールします。[Language Type] には、[Japanese] と [English]を選択します。
5. KB840141.exeを実行し、「Storage Manager 2.0 for Server Appliances [KB840141]」をインストールします。

WebUIのバージョン情報が正しくない

WebUIのバージョン情報ページで、WebUIのバージョン情報は3.1.4と表示されます。しかし、これは5.3.0と読み替えてください。

WebUIからACUの起動に失敗する

WebUIの **[ディスク (Disks)]** ページからACU機能にアクセスした場合、ACUを正しく起動することに失敗します。この問題を解決するには、ターミナル サービスを使用してサーバに接続し、ローカル デスクトップからACUを起動します。ACUは起動時に、ローカル アクセスのみと、ローカル アクセスおよびリモート アクセスのうち、どちらを使用するかを問い合わせを表示します。[リモート サービス モード (Remote Service Mode)]を選択します。これで、WebUIからACUが利用できるようになります。

DL370ストレージ サーバのWebUIではローカライズの対象として8つの言語すべてが表示される

WebUIの **[言語の設定 (Set Language)]** ページでは、選択肢として8つの言語すべてが表示されます。しかし、サポートされているのは日本語のみです。

構成

この節では、ストレージ サーバを構成するための詳細情報について説明します。

ML110 / DL100ではドライブ文字のない論理ディスクのフォーマットに失敗する

[QuickRestore] を使用し、OS用ドライブとデータ用ドライブを完全に消去した後、サーバは9 GBのOS用論理ドライブを2つ、データ用論理ドライブを1つ含んでいます。データドライブのサイズは、購入したモデルによって異なります。データ パーティションがドライブ内に存在している場合、そのパーティションにはドライブ文字がなく、フォーマットもされていません。[ディスクの管理 (Disk Management)] を使用してそのパーティションのフォーマットを試みた場合 (**パーティション** を右クリックし、**[フォーマット (Format)]** を選択)、「フォーマットは完了しませんでした。(Format did not complete successfully.)」というメッセージが表示されて操作は失敗します。

パーティションを正常にフォーマットするには、最初にドライブ文字を割り当て、次にフォーマットを行います。

SNMPのコミュニティ文字列の誤り

Compaq Insight マネージャ7.xまたはそれ以降、あるいはHP Systems Insight Manager (HPSIM) の任意のバージョンを使用している場合、デフォルトのSNMPコミュニティ文字列を変更しないでください。復旧を行っている間に、「cpqPublic」という付加的なコミュニティ文字列が追加され、使用されます。

Exchange データベース

この節では、Exchange データベースと ML110、DL100、ML350、ML370、および DL380 (Enterprise バージョンを除きます) の組み合わせに関する詳細情報について説明します。

構成の変更中にメールストアの移動に関して予期しない報告が表示される

Exchange システム マネージャ (Exchange System Manager) から リモート ストレージ ウィザード (Remote Storage Wizard) を使用して構成を変更している最中に、ウィザードがすべてのファイルを移動しているとユーザーに対して報告されることがありますが、生成されたこのレポートは誤っています。構成を変更している間は、どのデータ ファイルも移動されません。

リモート ストレージ ウィザード (Remote Storage Wizard) で元のパスへ戻すことができない

リモート ストレージ ウィザード (Remote Storage Wizard) を使用し、複数のメールストアをストレージ サーバの共有に移動しようとして、[次へ (Next)] をクリックした場合、すべてのメールストアを移動する手段を除き、これらのメールストアを元の場所へ戻す方法はありません。

詳細は、Microsoft の Web サイトにある「Common Deployment Questions: Microsoft Windows Storage Server 2003 Feature Pack」を参照してください。

複数のメールストアを移動するときにコピーに失敗する

共通のストレージ グループの中にある複数のメールストアを共通の Exchange パスへ移動しようとする場合、両方のメールストア データベースが同じファイル名を使用している (しかし、元のパスは異なる) 状況では、コピーに失敗します。たとえば、mailstore1 (c:\\$one\priv1.edb) と mailstore2 (c:\\$two\priv1.edb) を、共通の Exchange 共有へコピーすることはできません。これらのメールストアに対して異なるファイル名を割り当てよう注意してください。

移動を選択していないが 構成要約レポート (Config summary reports) ではすべてを移動している最中だと報告される

Feature Pack の一部として用意されている Microsoft のウィザードを使用して、複数のメールストアをホストしている Exchange サーバから Windows Storage Server 2003 ストレージ サーバ デバイスへ単一のメールストアを移動しようとした場合、ウィザードはすべてのファイルを移動すると報告することがあります。これは誤っています。移動対象として選択したファイルだけが移動されます。

NFS クライアントと Services for NFS

この節では、ストレージ サーバ上での NFS クライアントの使用方法に関する詳細情報について説明します。

ファイル サイズがサーバに正しく反映されない

NFSクライアントからWindows共有をマウントし、同NFS共有へファイルをコピーする場合、ストレージ サーバ上ではファイルの正確なサイズがただちに表示されないことがあります。

ストレージ サーバは、正しいファイル サイズを反映するために数分を要することがあります。

NFS非同期/同期 の設定を変更することは望ましくない

Windows Storage Server 2003環境では、NFS書き込み の同期機能を調整しても、パフォーマンスに影響を及ぼさないため、調整することは望ましくありません。正しい設定は、[同期書き込み (synchronize writes)] です。他のどの設定も、NFSセマンティックスに違反し、電源障害が発生した場合はデータを失う恐れがあります。この設定は、WebUIの [共有 (Shares)]、[共有プロトコル (Sharing Protocols)]、[NFS]、[プロパティ (Properties)]、[NFS非同期/同期設定] を順に選択してください。

WebUIを介してNFSログをクリアするとログ ファイルがアクセス不能になる

WebUIを介してNFSログをクリアすると、ログ ファイルはクリアされますが、このファイルのアクセス許可は不適切に設定されます。Windowsのエクスプローラを使用して `c:\$F\Logs` にアクセスすることが拒否されます。

この問題を解決するには、Server for NFSサービスを停止し、NFSログをクリアし、次にServer for NFSサービスを開始します。この場合、ログ ファイルはアクセスできます。

NFS管理共有のサポート

Services for NFSと管理共有を組み合わせる場合、CIFSと同じ形式では操作できません。デフォルトでは、C:のようなボリュームドライブは、C\$のようなCIFS共有になります。これは管理共有の例であり、CIFSクライアントにとっては非表示です。NFS共有を作成し、「drive\$」のような名前を付けた場合、その共有はNFSクライアントにとっては非表示ではありません。このNFS共有は、通常のNFS共有として機能します。

ボリューム マウント ポイントのサポート

マウント ポイントにマウントされているディスクにNFS共有を作成しようとすると、エラーになります。

NFSドライバにIOCTLを書き込むことはできません)...

ストレージ サーバは、UNIX®およびLinuxクライアント用のNFSプロトコルを含め、多くのネットワーク共有プロトコルをサポートしています。NFSプロトコルを有効にすることを想定している共有は、ドライブ文字を使用してマウントされている論理ドライブに作成する必要があります。Microsoft Windows Storage Server 2003は、マウントポイントまたは再解析ポイントにマウントされた仮想ディスクをサポートしています。再解析ポイントは、ドライブ文字を使用してすでにマウントされている他のディスク上に作成するポイントです。

マウント ポイントを使用すると、管理者は多くのディスク デバイスを1つのドライブ文字の配下にマウントし、連続した名前空間を持つ1つの大規模なディスクドライブを使用しているような見栄えと動作を実現できます。ただし、Microsoft Services for NFS Serverは、マウント ポイントの機能をまだサポートしていません。

NFS共有で使用されるすべての論理ドライブは、再解析ポイントやマウント ポイントではなく、ドライブ文字を使用してマウントする必要があります。特定の論理ディスクでNFS共有を1つも作成しない場合、ドライブ文字ではなくマウント ポイントに仮想ディスクをマウントできます。

NFS管理者がドメインにログインしていない場合、管理者はNFSマッピングの対象になっているドメイン ユーザーとグループをマッピングできない

管理者はドメイン ユーザーとグループをマッピングする前に、ドメインにログインする必要があります。管理者がまだドメインにログインしていない場合、ドメイン ユーザーとグループは、Windowsユーザーとグループからなるリストに掲載されていないので、マップできません。

日本語文字をマップするユーザー名

NFSサーバが使用するユーザー名マッピングは、日本語文字からなるUNIXユーザー名をサポートしていません。

NFSサーバが使用するNFSクライアント グループの名前の一部として、日本語文字を使用することはできません。

パスワード ファイルとグループ ファイルに記載したコメントが認識されない

NFSプロトコルのユーザーおよびグループのマッピングに合わせてセットアップするようパスワード ファイルとグループ ファイルを指定した場合、それらのファイル内で行頭に「#」記号を記述したコメント行は認識されません。コメント行を記載したパスワード ファイルまたはグループ ファイルを使用した場合、WebUIの中で次のエラーが表示されます。

The user list cannot be retrieved.(ユーザー リストを取得できません。)Make sure the password file is not corrupted and then try again.(パスワード ファイルが壊れていないことを確認し、もう一度実行してください。)

マッピング サービスの起動に失敗する

全てのネットワーク ポートがアクティブ リンクに接続されていないか、ポート ターミネータを使用している場合、マッピング サービスの起動に失敗します。この障害とともに、エラー イベントID 7034がシステム ログに書き込まれます。詳細は以下のとおりです。

- Source(ソース):Service Control Manager(サービス制御マネージャ)
- Category(分類):none(なし)
- EventID:7034
- File name(ファイル名):netevent.dll
- Description(説明):The user name mapping service terminated unexpectedly.(ユーザー名マッピング サービスは予期しない方法で終了しました。)

リンクまたはポート ターミネータを介してすべてのネットワーク ポートをアクティブにした後で、マッピング サービスを再起動できます。

Services for UNIX (SFU) 3.5の新しい機能

- **ベース ユーティリティ**—Interixサブシステムの提供—Windowsコンピュータ上で単独のサブシステムとして動作する、機能の豊富なUNIX環境です。CシェルとKornシェル、およびInterixサブシステム内で動作する350以上のユーティリティが付属しています。さらに、このコンポーネントはWindows主体の管理者に、ユーティリティとUNIXスタイルのコマンドを提供します。タスクのスケジュール設定に利用できる、WindowsベースのCronサービスと、WindowsベースのTelnetクライアントも用意しています。
- **UNIX Perl**—PerlスクリプトをInterixサブシステム内で実行できます。
- **GNUユーティリティ**—Interix GNUユーティリティをインストールします。これらは、Interixベースのユーティリティを補完します。
- **Interix SDK**—Interixサブシステム内で動作するアプリケーションの開発を支援する、機能の豊富なソフトウェア開発キット (SDK) を提供します。
- **RshSvc (Windowsリモート シェル サービス)**—リモート コンピュータから、サーバ上でコマンドを実行できるようにします。

Interixプログラムに対するsetuid動作の有効化

POSIX規格に従って、各ファイルにはアクセス権が設定されていますが、その中にはファイルを実行する際にUIDを設定するビット (setuid) と、GID を設定するビット (setgid) が含まれています。これらのビットの一方または両方が特定のファイルでセットされていて、プロセスがそのファイルを実行する場合、そのプロセスはそのファイルのUIDまたはGIDを取得します。このメカニズムを注意深く使用した場合、特権のないユーザーは、そのファイルの所有者または所有グループに相当する上位の特権を使用してプログラムを実行できます。ただし、このメカニズムを不適切に使用した場合、管理者だけが実行できるはずのアクションを、特権のないユーザーに許可してしまい、セキュリティのリスクを引き起こす可能性があります。この理由で、Windows Services for UNIXのセットアップは、デフォルトではこのメカニズムのサポートを有効にしていません。

setuidの動作のサポートを必要とするプログラムを実行することが確実な場合にのみ、そのサポートを有効にしてください。Windows Services for UNIXをインストールする時点でsetuidのサポートを有効にしなかった場合でも、後から有効にすることができます。詳細は、Windows Services for UNIXのヘルプで「enable setuid mode bits(setuidモード ビットの有効化)」を検索してください。

[Mapped Users(マップ ユーザー)] ボックスに日本語文字が表示される

SFUのMMCから[Mapped Users(マップ ユーザー)] ボックスを表示した場合、日本語の「¥」文字が、「\」（バックスラッシュ）文字の代わりに表示されます。この「¥」文字は、マップやインターフェースの機能を妨げません。

アプリケーションのヘルプ

この節では、ストレージ サーバ上のアプリケーションに関するさまざまなヘルプを使用するための詳細情報について説明します。

スケジュールされたストレージ レポートの保存場所に関するヘルプ項目が見つからない

ヘルプ ページの情報には、レポートの保存場所や、デフォルトの場所を変更するための設定項目が記載されていません。

スケジュールされたストレージ レポートを作成する場合、`C:\Windows\System32\ServerApplicance\WQuinn\StorageCentral SRM\5.0\Reports`に保存されます。

HP OpenView Storage Mirroring ページに関するコンテキスト ヘルプが正しく表示されない

WebUIの中で、HP OpenView Storage Mirroring ページに関するコンテキスト ヘルプは、「プライマリ ナビゲーション ページ (Primary Navigation Page)」ヘルプを表示します。しかし、[ヘルプ] タブの中には、HP OpenView Storage Mirroring に関するヘルプ トピックはありません。

OVSMのヘルプを表示するには、OVSMの管理コンソールを開き、[Help]、[Help Topics] の順にクリックします。

その他のアプリケーションとユーティリティ

この節では、ストレージ サーバ上で特定のアプリケーションとユーティリティを使用するための詳細情報について説明します。

日本語サポート

以下のストレージサーバは日本語をサポートしています。

- ProLiant DL100/DL380 (SANストレージ モデル除く) Storage Server
- ProLiant ML110/350/370 Storage Server

ただし、日本語への変換方法は機種により異なります。

DL100/ML110: 以下の手順に従ってください。

1. キーボード、モニタ、およびマウスを接続します。
2. Administratorアカウントを使用してローカル アカウントにログインします。パスワードは**hpinvent**です。
3. [Start] メニューから [Run...] を選択します。
4. 次の文字列を入力します。

`c:\hpnas\Conv.vbs`

5. [はい] を選択して、システムを日本語に変換し、サーバを再起動します。

その他の機種: 次のサイトより日本語変換の手順を入手してください。

http://www.hp.com/jp/storage_server

Storage Manager 2.0コンポーネントにアクセスすると、ブルースクリーン (BSOD) が表示される

Storage Manager 2.0のコンポーネントにアクセスしたときにストレージ サーバがクラッシュしてリブートする可能性があるという問題が発見されました。これに該当するコンポーネントは、ディレクトリ クォータ、ストレージ レポート、およびファイル スクリーニングです。この問題が発生するのは、OpenView Storage Mirroring 4.3.3とSymantec Anti-Virus 9.0の両方がストレージ サーバにインストールされ、動作している状態で、少なくとも中規模程度の負荷でシステムが動作している場合です。



注記

サーバの負荷とは、クライアントの動作、サーバストレージの読み出しと書き込みを意味します。中規模程度の負荷は、使用されているサーバプラットフォームによって異なります。

この問題を回避するには、Storage Managerの該当コンポーネントを実行する前に、Symantec Anti-Virus製品の自動保護機能を無効にします。コンポーネントの終了後に自動保護機能を再起動します。

HPユーティリティのサポート

現時点で出荷されているすべてのHP ProLiantストレージサーバWindows Storage Server 2003 (WSS2003)製品ファミリは、HP ProtectTools Authentication Services、Device Manager、およびRole Based Accessの各ソフトウェアをサポートしています。

DL100/ML110がRapid Launchの検出ウィンドウで正しく表示されない

Rapid Launchバージョン2.7.134は、ML110およびDL100の各ストレージサーバをHP StorageWorks NAS 1200として検出し、ユニットのシリアルナンバーを返すことに失敗します。[リモート Insight ボード Lights-Out Edition の検出を含む (Include Remote Insight Lights-Out Edition boards in Search)] チェックボックスがチェックされている場合、Rapid LaunchはDL100とML110どちらのストレージサーバも検出しません。

この問題を解決するには、該当のデバイスをクリックして、そのデバイスに対応するWebUIを開き、システムのIDを判断します。まだ構成されていないシステムでは、WebUIの中で、ホスト名としてシリアルナンバーが表示されます。[リモート Insight ボード Lights-Out Edition の検出を含む (Include Remote Insight Lights-Out Edition boards in Search)] チェックボックスがチェックされていないことを確認してください。このチェックボックスは、検索条件からDL100とML110の全モデルを除外するからです。

Rapid LaunchがProLiantストレージサーバ製品の検出に失敗する

Rapid Launch 2.7.134は、ML350、ML370、およびDL380の各ストレージサーバを検出しません。

Rapid Launchの将来のバージョンにより、この問題は解決される予定です。現時点でも、キーボード、モニタ、およびマウスをユニットに直接接続するか、ホスト名としてシリアルナンバーを使用してクライアントブラウザを紹介することにより、これらのシステムを構成できます。

詳細については、『インストール ガイド』を参照してください。

SNMPが50%の負荷を発生させるかブート時にエラーになる

スタートアップ時に特定の状況が成立する場合、SNMPプロセスはCPUの50%を消費すること、またはエラーを返すことがあります。

この問題を回避するには、リブートしてください。詳細は、MicrosoftのWebサイトにある「Common Deployment Questions: Microsoft Windows Storage Server 2003 Feature Pack」を参照してください。

暗号化ファイルのリプリケーションに失敗する

HP OpenView Storage Managerを使用し、一連のファイルをターゲットの場所へリプリケートするよう設定した後で、ソース (リプリケート元) でそれらのファイルのいずれかを暗号化した場合、システム キャッシュのフラッシュに起因する遅延が原因で、それに対応するファイルがターゲットの場所では暗号化されないことがあります。詳細については、OVSMリリース ノートを参照してください。

暗号化ファイルをミラーリングする場合、注意が必要です。暗号化された一連のファイルをターゲットの場所へミラーリングし、その後、ソース ファイルを暗号化解除した場合、ミラーリング先のファイルはターゲットの場所で暗号化されたままになります。

NSS ビルド 1.2.402.211のNQSはWSSベースのストレージ サーバでは機能しない

HP ProLiant Storage Serversとビルド1.2.402.211のNorthern Quota Server (Northern Storage Suiteのコンポーネント) を組み合わせたテストで、非互換性が存在することが判明しました。Northern Storage Suite ビルド 1.3.406.1021のその後のテストで、非互換性の解消が確認されています。

ML110とDL100で書き込みキャッシュが無効になる

Adaptec 2410SAは、先読みまたはライト バックに使用されるキャッシュ メモリを実装しています。ライトバック キャッシュを有効にすると、実際にはオンボード メモリに書き込みが行われた時点でディスクへの書き込みが終了したものとみなして処理されるため、パフォーマンスが向上します。これで大幅にパフォーマンスが向上する一方、メモリに対する書き込みが完了しディスクへの書き込みが完了していない時に、装置に電源障害が発生すると、データが失われることがあります。キャッシュを有効にして使用する場合は、データ損失が起らないようにするために無停電電源装置 (UPS) をユニットに取り付けることをおすすめします。キャッシュメモリは、Adaptec Storage Managerユーティリティ (『管理者ガイド』参照) またはROMベースの設定を通して調整します。デフォルトでは、[Adaptec Storage Manager] は、このツールを介して新しく作成された論理ディスクに対して、書き込みキャッシュを[enabled(有効)] に設定します。ユーザーが新しい論理デバイスを作成した場合、この設定値を確認し、適切に設定してください。

Internet ExplorerがMicrosoftのWebサイトから取得したWindows Updateページをデフォルトにする

特定の状況では、ローカル デスクトップからInternet Explorerを使用した際に、Internet ExplorerがWindows Updateページをデフォルトのページにすることがあります。この問題を解決するには、アドレス バーで次の文字列を入力します。https://Localhost:3202

HPのWebサイトで最新のセキュリティ ホット フィックスを確認する

ProLiantストレージ サーバに関するHPのWebサイトで、セキュリティ ホット フィックスのアップデートを定期的に確認し、オペレーティング システムが常に最新の状態になっていることを保証してください。

Microsoft Storage Server 2003

ストレージ管理機能を使用してファイル スクリーニングを実装しているときに不正なエラーが発生する

特定のファイル タイプについて、ボリュームまたはディレクトリでファイル スクリーニングを有効にし、制約されたタイプの、そのボリュームへのファイル転送を試みただけの場合、不適切なエラー メッセージがユーザーに返されます。ディスク容量は使用可能であるにもかかわらず、ユーザーは、「**「空きディスク領域が足りません (Not enough free disk space)」**というエラーを受け取り、ファイル転送はブロックされます。

MacintoshマシンからAppleShareに接続できない

Mac OS Xマシンを使用してストレージ サーバの共有にアクセスしている場合、次のエラーが返されます。

No file services are available at the URL afp://IPAddress.(afp://IPAddressのURLでは、ファイル サービスが使用できません。)Try again later or try a different URL (server returned error-5002).(後で試すか、他のURLを試してください。(サーバはエラー -5002を返しました))

クライアント認証方法をMS + Appletalkに設定することにより、クライアント側でのクリア テキスト送信が成功し、正常に操作できるようになります。.

クイック リストア プロセス

論理ドライブが見つからない場合、クイック リストアDVDはすべてのデータを消去する

この現象は、DL100 / ML110の各ストレージ サーバ製品に固有のものです。



注意

クイック リストアがオリジナルのプライマリおよびセカンダリのOS用論理ドライブを検出できなかった場合、クイック リストアはこれらのドライブの全データを消去します。論理ドライブのレイアウトが変更されずに残った場合、データ用ドライブは保護されます。データ用ドライブが保護された場合、そのドライブを使用する前に、保護されたボリュームに対して元のドライブ文字をもう一度割り当てる必要があります。クイック リストアの手順を実行する前にデータをバックアップする方法の詳細は、『HP ProLiantストレージ サーバ管理者ガイド』、および『HP ProLiantストレージ サーバ インストール ガイド』を参照してください。

DVDドライブ トレイの自動クローズ機能がクイック リストアを起動してしまう

電源を入れたときにDVDトレイを自動的にクローズする機能を採用しているサーバでは、DVDトレイをイジェクトした際にDVDメディアを取り出すよう注意してください。このことを怠ると、クイック リストア プロセスが再び起動されてしまいます。この現象が発生した場合、DVDメディアを取り出し、サーバの電源を切り、その後でサーバの電源を入れます。